

1 単元名 「一枚絵本に書き換えて、表現の違いを楽しもう」—『木竜うるし』—

2 単元について

(1) 単元の概要

学習指導要領では、次のような位置づけになっている。

【第3学年及び第4学年】

1 「知識及び技能」の指導事項

(1) イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。

2 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

C 読むこと

(1) オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

『木竜うるし』は、元々、人形劇の脚本であり、登場人物の立場や状況によって態度や行動が一変し、人間の本质が露呈される様子をユーモラスに描き出している。本単元では、『木竜うるし』を読み、その脚本をもとに散文化する活動を設定している。せりふやト書きによって凝縮された心情や情景を想像しながら散文化することは、会話や行動を通して登場人物の性格や様子を確かめ、地の文を創り上げることであり、意欲的に取り組むことが期待できる。

本教材『木竜うるし』に登場する権八は、欲深くずるがしこい人物として、またもう一人の登場人物である藤六はお人よしで気のいい人物として描かれている。権八は抜け目がなくずるい人間で、「うるし」を独り占めしようとして木竜を作り、ふちの底に沈めておくという知恵を働かせ、てきぱきと行動する。せりふも歯切れよく、人物像がはっきりとしている。一方、藤六は、いかにもお人よしで気立てがよく、行動もせりふものんびりしている。特に、第一場面の藤六は、権八に対してあくまでも従順である。この二人は正反対の性格をもつため、それぞれの人物像は捉えやすい。話が進む中で、初めは権八が主導権を握っていたが、第三場面から藤六と立場が逆転する。この展開がこの教材の面白さである。立場が逆転した後、権八の考え方は変化している。「うるし」への欲が消え、ばか正直で利用しやすい人間とみなしていた藤六の、人間としてのよさにも気付いた。さらには、「おら」だけであった視点が、「みなものしゅう」へと広がっている。反面、藤六については、後半には権八をリードし、立場は変化しているものの、人柄は変わっていない。読みと散文化を通して、こうした発見とともに、権八と藤六の人物像を浮き彫りにしたい。

第1次では、『木竜うるし』の人形劇を紹介することで、脚本の表現に興味をもたせる。そして、脚本と一枚絵本の教師見本との比較を通して、『木竜うるし』を「一枚絵本に書き換えて、表現の違いを楽しもう」という学習課題を設定する。脚本を物語文にするには、物語の全体の流れを把握し、権八と藤六の性格の違いや気持ちの移り変わりを捉え、登場人物の気持ちを想像する必要がある。そこで第2次では、散文を書くにあたり、登場人物の性格や気持ちの移り変わりを捉えていく。第3次では、第2次で捉えた登場人物の性格や気持ちの移り変わりを地の文として書き加え、一枚絵本を作成していく。一枚絵本とは、気に入った場面を物語の文章に書き換え、そこに挿絵を一つ追加して作る絵本である。これを読み合うことで、せりふから捉えた気持ちが人によって異なることを感じ、読みの面白さを感じさせたい。

(2) 単元の観点別目標

知識及び技能：様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増やし，話や文章の中で使うとともに言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすることができる。

思考力，判断力，表現力等：「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつことができる。

学びに向かう力，人間性等：積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，脚本を物語のように書きかえようとしている。

3 研究仮説との関連

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や，習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで，21世紀を生き抜く力を高めることができる。

③ 教師の目標（ねらい）と児童の目的（めあて）を明確にする。

第1次では，物語全体を捉え，一枚絵本を作成するという学習の見通しをもつ。第2次では，権八と藤六の性格の違いを捉え，権八の考え方の変化について，叙述を基に読み取り想像する。そのための手立てとして，会話の様子から権八と藤六の性格を比較して，叙述から読み取れるようにする。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで，21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり，深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

第3次の一枚絵本の作成では，第2次までの読みを基にメモを作成する。そのメモを友達と見せ合いながら，自分が悩んでいるところを相談したり，友達のメモのよいところを自分にメモに取り入れたりできるように伝え合い活動を行う。完成した一枚絵本を同じ場面で書き換えを行ったメンバーで読み合い，それぞれの思いが入った『木竜うるし』について感想を全体で発表する。これにより，表現の豊かさに気付き，物語を読む楽しさも増すだろう。

4 指導計画（全8時間扱い）

次	時	学習のねらい	児童の学習内容と評価
1	1	・ 作品に関心をもち，学習の見通しをもつことができる。	・ 『木竜うるし』の読み聞かせを聞き，脚本について知る。 ・ 一枚絵本の見本から，その特徴を読み取る。 ・ 『木竜うるし』の心に残った場面で一枚絵本を作成することを知り，学習の見通しをもつ。 評 作品の関心を高め，一枚絵本を作成するという学習の見通しをもっている。 【態】（発言）
	2	・ 物語の流れを想像し，全体を捉えることができる。	・ 語句の意味を確認する。 ・ 物語の全体像を捉える。 評 物語の全体像をまとめている。 【思】（ノート）
2	3	・ 権八と藤六の性格の違いを捉えることができる。	・ 権八と藤六の性格のわかるところに線を引き，二人の性格の違いについてまとめている。 評 権八と藤六の性格の違いに気付き，まとめている。 【思】（ノート）
	4	・ 権八の考えや気持ちの移り変わりを想像することができる。	・ 権八の考えや気持ちが少しずつ変化していくせりふと，変わった理由をノートにまとめる。 評 権八の考えや気持ちが少しずつ変化していく様子に気付き変わった理由をまとめている。 【思】（ノート）

	5	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残った場面を見つけ、わけを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残った場面と理由を書き、伝え合う。 ・脚本を物語文に書き換える方法を確認する。 <p>評 権八や藤六の性格や権八の考えの変化を踏まえて、お気に入りの場面と理由を書いている。</p> <p style="text-align: right;">【思】(ノート)</p>
3	⑥ 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のアドバイスを参考に、物語の文章に書き換えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残った場面を選び、物語の文章に書き換えるためのメモを作成する。 ・想像を膨らませながら、地の文を付け足し、物語文に書き換える。 <p>評 心に残った場面を、物語の文章に書き換えている。</p> <p style="text-align: right;">【思】(メモ, 一枚絵本)</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残った場面の人物の気持ちや様子を想像し、物語の文章に書き換えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像を膨らませながら、地の文を付け足し、物語文に書き換える。 <p>評 心に残った場面を、物語の文章に書き換えている。</p> <p style="text-align: right;">【思】(一枚絵本)</p>
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを共有し、自分の考えを広げ、学習を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一枚絵本を見合って表現の違いに気付く。 ・学習の振り返りをする。 <p>評 表現の違いや物語の面白さに気付く。</p> <p style="text-align: right;">【態】(ノート, 発言)</p>

5 本時の指導（6／8）

(1) 目標

- ・心に残った場面の人物の気持ちや様子を想像し、物語の文章に書き換えることができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。

④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

本時は、第2次までに読み取ったことをもとに、一枚絵本を作成していく。自分が選んだ場面を書き換えていくが、書いていてうまくいかないところがあったら、友達からアドバイスをもらいながら書き進めていきたい。そのために、3～4人の生活班になった状態で書き換えを行っていく。

(3) 展開

◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	指 導 上 の 実 際 と 考 察 [実 際 の 児 童 の 様 子]	時 配 <small>() は 実 際 に か っ た 時 間</small>
1 前時で書き換えたものを振り返る。	・気持ち、様子、つなぎ言葉、文末表現を付け足すように確認した。	5 (5)
2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">登場人物の気持ちや様子が伝わるように物語文に書きかえよう。</div>	・言動や挿絵を参考に、心情や情景などを想像するように伝えた。	3 (3)
3 書き換えメモをつくる。 ・前回選んだ場面の人物の気持ちや様子を表す言葉を考える。 ・文末を～した。～でした。の形にする。 ・驚いた様子で話しかけた。など気持ちや様子を表す言葉を入れる。	・メモを作成しながら、友達に相談したいことを考えておくように伝えた。 (「6 本単元の成果と課題」に児童の書き換えメモ画像あり)	10 (15)
4 メモについて話し合う。 ・うれしいという言葉を入れるとわかりやすい。 ・感謝している気持ちじゃないかな。 ・会話の途中で説明を入れるといい。 ・切っているじゃなくて切り始めたとなると様子が分かる。	◎ 3～4人の生活班で話し合いながらよいところやアドバイスを伝えた。 評 登場人物のせりふからその場面の気持ちや様子を考え、自分の考えを伝え合っている。 手 友達の考えを聞いて、わかったことや深まったことを生かして、自分の考えをメモに書けるように助言した。	10 (15)

<p>5 メモをもとに一枚絵本を作成する。</p> <p>6 振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「ポチャン」はどういう感じだろうか。 ・話に夢中になって落とした感じがする。 ・この権八はどういう気持ちだと思うか。 ・優しい気持ちで言ったと思う。 ・このピーチクとこのピーチクはどのように違うと思うか。 ・最初の方が楽しそうに言っていると思う。 </div> <p>・メモに書いていないことでも、一枚絵本を書きながら書き加えてもよいことを伝えた。</p>	<p>15 (5)</p> <p>2 (2)</p>
--	--	------------------------------------

(4) 板書



5 本時の指導（6／8）

(1) 目 標

- ・心に残った場面の人物の気持ちや様子を想像し、物語の文章に書き換えることができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。

④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

本時は、第2次までに読み取ったことをもとに、書き換えメモを作成していく。自分が選んだ場面を書き換えていくが、書きながら迷うところやわからないところがあった場合、友達からのアドバイスを参考にし、書き進めていきたい。そのために、3～4人の同じ場面を選んだ児童同士で班になり、書き換えを行っていく。

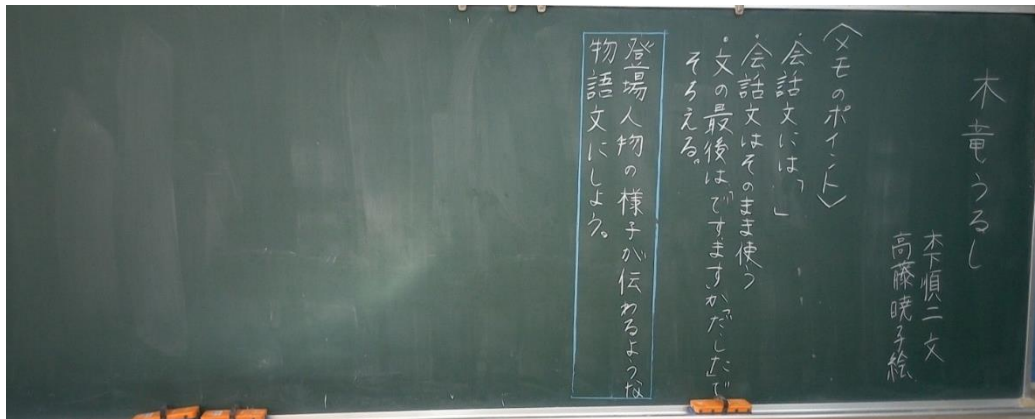
(3) 展 開

◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 ┌───────────┐ │ 実 際 の 児 童 の 様 子 │ └───────────┘	時 配 () は 実 際 に か か っ た 時 間
1 前時で書き換えたものを振り返る。	・気持ち、様子、つなぎ言葉、文末表現を付け足すように確認した。	5 (4)
2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">登場人物の様子が伝わるような物語文にしよう。</div>	・言動や挿絵を参考に、心情や情景などを想像するように伝えた。	3 (5)
3 書き換えメモをつくる。 ・前回選んだ場面の人物の気持ちや様子を表す言葉を考える。 ・文末を～した。～でした。の形にする。 ・驚いた様子で話しかけた。など気持ちや様子を表す言葉を入れる。	・メモを作成しながら、友達に相談したいことを考えておくように伝えた。	17 (15)
4 メモについて話し合う。 ・うれしいという言葉を入れるとわかりやすい。 ・感謝している気持ちじゃないかな。 ・会話の途中で説明を入れるといい。 ・切っているじゃなくて切り始めたとする と様子が分かる。	◎同じ場面を選んだ人で4人班を作り、話し合いながらよいところやアドバイスを伝えさせた。 評 登場人物のせりふからその場面の気持ちや様子を考え、自分の考えを伝え合っている。 手 友達の考えを聞いて、わかったことや深まったことを生かして、自分の考えをメモに書けるように助言した。	10 (14)

5 物語文に書き換える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ここにどういう言葉入れた？ ・「一生懸命」を入れたよ。 ・(言葉の木を見ながら) たくましくはどう？ ・どうしてそこに『楽しそうに』を入れたの？ 	7 (5)
6 振り返りをし、次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをもとに、再びメモを作った。 	3 (2)

(4) 板書



6 本単元の成果 (○) と課題 (●)

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

- ③ 教師の目標 (ねらい) と児童の目的 (めあて) を明確にする。
- 1時間目で一枚絵本の作成をすると伝え、教師見本を示すことで、何のために物語を読むのかというめあてが明確になった。
- 全体の見通しをもたせ、計画的に一枚絵本を作成していく中で、内容を読み深めることができた。(末部に画像あり)
- 教師見本を見せるだけでなく、どのような要素が組み込まれているか児童と分析し、何に気を付けて書くことが大切かしっかりと押さえる必要があった。
- 一枚絵本を作成する作業に入る際に、内容を理解しておらず、すぐに書き始められない児童がいたため、作業に入る前に本文の内容をより深くおさえる必要があった。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

- ④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。
- 自分の考えだけでなく、友達のことを参考にしたり、自分が悩んでいるところを友達に相談したりすることで考えの広がりがあった。
- 伝え合い活動により、同じ文でも人によって捉え方が違うということに気付き、多面的に読み進めることができた。
- 話し合いがしやすいように一枚絵本を作成する場面や範囲を細かく指定し、そろえる必要があった。
- グループ内の交流だけにとどまってしまう、同じ場面を選んだ他のグループ同士での読みを深めることができなかつた。そのため、同じ場面を選んだグループ同士での交流をし、グループによる捉え方の違いに気付かせる活動を行う必要があった。

